

➤ 13日 火曜

マルコ



14:22 さて、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしのからだです。」

14:23 また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、彼らにお与えになった。彼らはみなその杯から飲んだ。

14:24 イエスは彼らに言われた。「これは、多くの人のために流される、わたしの契約の血です。」

14:25 まことに、あなたがたに言います。神の国で新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、もはや決してありません。」

14:26 そして、賛美の歌を歌ってから、皆でオリーブ山へ出かけた。

14:27 イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、つまずきます。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊は散らされる』と書いてあるからです。」

14:28 しかしわたしは、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」

14:29 すると、ペテロがイエスに言った。「たとえ皆がつまずいても、私はつまずきません。」

14:30 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。まさに今夜、鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

14:31 ペテロは力を込めて言い張った。「たとえ、ご一緒に死ななければならぬとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません。」皆も同じように言った。

聖餐式の原型がここにあります。それは単なる儀式ではなく、イエス様の十字架を覚えることであり、またこのように十字架前夜にイエス様の弟子たちの一人として、その食事にあずかることでもあります。教会の礼拝で聖餐のときは、その意味と心を大切にしましょう。また十字架に至るイエス様の思いを深く感じながら、これにあずかりましょう。

イエス様とペテロとの会話は、マルコでは「オリーブ山に出かけてからであり、ルカではその前になっています。その話題が続いていたのかもしれませんが、それほどペテロには警告が与えられていたのに、彼は「私はつまずきません。」と、あくまでも自分の意思の強さを過信していました。しかも「たとえ皆がつまずいても」と、他の者の信仰を見下している様子も感じられます。

そこには彼の熱心さや主への情熱もあり、それゆえ彼は自分の思いは純粋だと感じていたでしょう。しかし誰の信仰であっても、人間の意志は弱いので聖霊によらなければ、それを全うすることはできないのです。

主への情熱を持ち、聖霊に頼りつつ、弱さをみ認めて謙遜になりましょう。何に関することでも、自分の弱さゆえの警戒が与えられたら、それを受け入れて、主によって強められましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

